

令和元年度徳島県立図書館協議会の概要について

I 日時 令和2年1月23日（木）午前10時～正午

II 場所 徳島市八万町向寺山 徳島県立図書館 集会室1

III 出席者

委員（10名中9名出席）

漆原 薫	読み聞かせの会「たんぽぽ」会員
岡 富士子	徳島県高等学校PTA連合会監事
杉山 悦子	四国大学文学部講師
鈴木 綾子	徳島ペンクラブ副会長・事務局長
橋村 百恵	徳島県公立図書館協議会理事（美波町日和佐図書・資料館長）
平井 松午	阿波学会副会長（徳島大学大学院教授）
藤島 小百合	徳島県学校図書館協議会副会長（入田小学校長）
森川 のぞみ	四国大学文学部学生
余郷 裕次	鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授
県立図書館	館長、副館長、館員
県立二十一世紀館	副館長、館員

※欠席委員

表 聖司 NHK徳島放送局長

IV 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 平成30年度事業実績について
 - (2) 令和元年度事業実施状況について
 - (3) 電子書籍閲覧サービスの提供について
 - (4) 「徳島県立図書館サービス向上目標（第3期）」の推進状況について
 - (5) その他
- 4 閉会

V 概要

- 1 議事の（1）から（4）までは、事務局が説明

【議事（１）平成３０年度事業実績（２）令和元年度事業実施状況】

委員： あわっ子文化大使の図書館司書体験とあるが、修了後には修了書やジュニア司書といったものを出しているのか。

事務局： そういうものは出していない。

委員： 大人版読書手帳ができ、ホームページからダウンロードできるとのことだが、以前の子ども読書手帳もダウンロードが可能か。

事務局： ホームページ上からダウンロードできるようになっている。

会長： ダウンロードした件数は分かるか。

事務局： 大人版読書手帳についてダウンロード件数は把握していないが、昨年１１月、先着１００名に無料配布したところ、２週間ほどでなくなった。
子ども読書手帳では、全ての欄を埋め持って来てくれたらシールの配布するようにしている。人数を把握する方法も考えたい。

会長： 名前を出して褒めてあげるとか、意欲を出す方策があってもいいのかなと思う。

委員： 児童サービス関係で、子どもの読書に関する研修会は、年間何回行っているか。

事務局： 講演会を年に１回開催しており、今年度は２月１６日に佐々木宏子先生をお呼びして開催する予定である。これは、当館読み聞かせボランティアの研修会も兼ねている。昨年度の実績としては、約４０名の参加があり、そのうち１５名が読み聞かせボランティアであった。

この他に、「初めての方のための読み聞かせ講座」というのも開催している。今年度は、絵本専門士の渡邊美恵さんを招き、初めて読み聞かせをする方、したい方を対象にそのスキルについて講義形式・ワークショップ形式で開催した。

委員： 児童関係資料費が平成２９、３０年度と大幅に増えており、力を入れているという印象だが、子どもや親子連れの利用は増えたか。

また、ここの立地条件として、利用するなら親子連れや学校だと思うが、イベント、行事の広報はどのようにしているか。

事務局： 児童書の貸出冊数は、平成２８年度に比べ平成２９、３０年度は増加している。資料費が増えるに従って貸出冊数も伸びている。

広報については、図書館ホームページに掲載し、館内にチラシを置いている。また、文化の森全体では公式アカウントがあり、ツイッターで発信しており、そこで図書館についても発信している。また、昨年度からは、「文化の森」、「阿波文化」などのハッシュタグも付けて、引っかけやすいようにしている。

【議事（3）電子書籍閲覧サービス】

会 長： 電子書籍については、特に辞典類が多いということで非常に便利と感じる。

委 員： 今、全国の大学附属図書館で電子ジャーナルの費用が問題となっている。大きな総合大学だと億単位である。24時間、必要な本が閲覧可能というのは研究上必要ではあるが、毎年値上がりするこの費用のため予算は厳しくなっている。

この利用件数（1,500件）で年間500万円ということは、個人的には撤退していい数値だと思う。

委 員： 私も同様のことを思っている。私の大学でも、電子ジャーナルの費用がかなり負担となっている。

会 長： 電子書籍のKinoDenは、全国的にどれぐらい入っているのか。

事務局： 大学には入っているが、公立図書館では当館が一番手となっている。

KinoDenもサービスを始めたばかりなので、こちらからも要望を伝えながら相互に連絡を取り合って進めている。「徳島県史」もこちらから要望して入れてもらった。

事典・辞書類を24時間、紙の本で提供するの難しい。また、利用者それぞれに事情があり遠方の方もいる。来館しないと調べられないという状況は、このサービスにより緩和されると思う。今後、こういったコンテンツがよいかいろいろな動向を見ながら決めていきたい。

会 長： 大学も公共図書館も試行錯誤的などころがあり、ここの図書館が全国の先端をいっているのであれば、実験的な取り組みだと思う。

電子書籍を増やせば、契約料金は上がっていくのか。

事務局： 紙の本と同じ買い切り型である。買えばアクセス権をずっと保有でき、KinoDenが続く限り見ることができる。500万円とあるのはランニングコストではない。

委 員： 500万円で1,500件の利用だと、1件3,000円ぐらいでもったいな

いと思う。全体予算のうち、電子書籍500万円の割合はどれぐらいか。

事務局： 図書資料購入費38,333,504円（平成30年度）、これには電子書籍500万円は含まないので、これに500万円を足したものの割合で、十数%かと。

会長： まずは、閲覧件数を増やす努力をするというのが大事である。

県民という話が出たが、例えば東京都の人が見ることは可能か。

事務局： Myライブラリへの登録が必要であり、その前提として貸出カードが必要なので、徳島在住か県内で働いている方となる。そのかわり、登録者はネット環境さえあれば海外でも利用可能となる。

委員： 利用上位5タイトルを見ると、私のような者にはよく分からない。専門的な人が見ているという感じだが、実際に喜ばれたという具体的な意見、反応が分かれば納得しやすい。1,500件利用者からの声が聞きたいと思う。

事務局： たまたま、今回は資格試験関連が上位5位となっているが、学校でのプログラミング必修化ということもあり、これに関連した親子で楽しめるマンガなども入れている。

委員： 電子書籍のことを知らなかったが、親の目線からだとすごく良いと思う。自分は県西部の出身で、そこからここに来るということはなく、近くの図書館に行っていた。環境があって見られるのは良いと思う。

会長： 地理的に不利な人に対して、ここに来なければという状態を一部改善できると思う。ただ、本は一般的な利用に資するものというのが重要である。

委員： 今までなら図書館の収集対象にならなかった資格試験参考書が見えるというのはいい。「それはリクエストの対象外です」と断ってきたような本について、「県立図書館の電子書籍がありますよ」と案内できるのは大きい。

委員： 学校の図書室に来る子の中には、お話ではなく図鑑を見たい子がたくさんいる。学校では新しい図鑑をそろえるのは難しいので、これで見えるのはありがたい。毎年、読書感想画コンクールがあるが、今年は電子書籍が大分あった。子ども達にとっては、非常に身近なものになっている。

委員： 現在の電子書籍は、ラインナップの多くはマンガや娯楽的なものであり、専門書や小説などが電子化されているわけではない。語弊あるが、質に問題がある。これが電子書籍が普及しない問題であると思う。例えば、『徳島県史』が見られ

るのというは魅力的である。

市町村立図書館を通じて県立図書館の本を借りる相互貸借では物流コストが必要である。電子書籍の500万円をこれにあてるなど、資料費だけでなく全体の運営として検討いただきたい。

会 長： 始めたばかりなので、継続するかどうか直ぐには判断が難しい。

当面の課題は、利用者拡大とどんな書籍を買うかという質的なところ。多分、辞典類は非常にニーズが高いだろう。学校での学習を助ける類いのものも強く望まれる。新聞記事にしてもらおうとか、全国的な会議で徳島県の取り組みをアピールしながら、当分は静観するという事。

事務局には、委員の意見を踏まえ進めてもらいたい。

事務局： 全ての県民に負担なく資料を提供するというのが重要と考えている。

宣伝、コンテンツ揃え、紙の本とのバランスも考えながら進めていきたい。

【議事（4）「徳島県立図書館サービス向上目標（第3期）」の推進状況】

会 長： サービス向上目標の専門情報支援—レファレンス件数、目標値が16,000件で、実績が約10,000件と、難しい状況だが理由はこういったところか。

事務局： 目標設定の段階で、多く見てしまったというのがある。ネット環境が整い、簡単な調べものは自分でできるようになっている。また、当館でしか見えなかった蜂須賀家文書も、国文学研究資料館ホームページで公開され、そこで見えるようになったりもした。

様々な理由があると思うが、次回以降は、数でなく質で設定できたらと考えている。

会 長： 先ほどの電子書籍の件数とかは、サービス向上目標のどこに入るのか。

事務局： 「全県民へのサービス展開」あたりかと思われる。ただ、複数の目標にまたがるものもあるので、「再掲」という表現も活用しながら図書館全体の実態がより分かるようにしていきたい。

会 長： 先ほどの、蜂須賀家の資料が電子媒体で公開されて紙媒体の利用率が下がるなど、まわりの状況も含め利用の形態が変わってきている。これも達成できなかった理由として説明が必要でないかと思う。

委 員： 郷土レファレンス公開件数が年々上がっているのは素晴らしいと思う。

事務局： 郷土レファレンスについては、県内というよりは県外からのメールレファレンスが増えている。一度利用していただくと、繰り返し利用頂くこともある。また、デジタルデータをアップすると、それについての質問が増えたりする。

委員： 毎年言っていることだが、日本の人口は40年後には8千万人台、最高の人口の3分の2になる。人口が減少していくのだから、目標は右肩下がりでもいいと思う。右肩上がりの目標設定には無理がある。

会長： 先ほど事務局からあったように、これからは量より質の評価目標を上げればいいと思う。

委員： 子どもの読書活動の推進として、海外の秀作絵本を英語、韓国語、中国語など様々な言語で収集しているのが良い。

小学校低学年から英語教育が始まっている。小さな子ども向けだけでなく、小中学生向けの英語絵本の読み聞かせもしてもらえれば、もっと本が借りやすくなり、もっと英語が身近になると思う。

委員： こういった絵本は、大学図書館へ団体貸出は可能か。

事務局： 鳴門教育大学とは相互貸借協定を結び貸出しをしているが、その他の大学とは、現時点では行っていない。

委員： うちの大学の附属図書館では、児童図書室内にキッズイングリッシュコーナーを設けて、常駐職員はいないが学生ボランティアで読み聞かせを始めている。しかし、子ども達は従来の児童図書室の活動には積極的だが、このコーナーにはまだ入るようにはなっていない。まだ始めたところだが。

翻訳絵本と英語の原本をセットにして置いてもらえると有り難い。比較しながら読むことができ、英語教育に使いやすいと思う。

委員： 図書館の皆さんには熱心に活動いただき、電子書籍にしても前進、向上していることについて敬意を表する。また、いつも迅速な検索、資料提供をして頂き、感謝している。

阿波の歴史小説の感想文応募の際も、郷土資料コーナーで阿波の歴史小説をブックスタンドに立ててくれ、横に応募用紙も置いてくれている。その配慮にも感謝している。

会長： 意見も出尽くしたようなので、これで議事を終了したい。